



# カメラ探訪

## 文学のふるさと

その13 峠の茶屋



草枕

— 夏目漱石 —

明治30年の大みそか、熊本二度目の正月を迎えるにあたって、漱石は小天温泉への逃避行をくだした。

「おい、と声を掛けたが返事がない。軒下から奥を覗くと煤けた障子が立て切っている。」

この名文句で知られる茶屋は、いまもひなびた姿で残っている。もっとも本当の昔の茶屋は、現在地より手前にあったそうで、旧道がおもかげをとどめている。



下益城郡小川町立小川小学校 六年 陣立昌之

僕達の住む小川町は、昔宿場町として栄え熊本市と八代市を結ぶほぼ中央、国道三号線を中心に東西に広がる町です。北は松橋町、南は八代郡竜北町を境にして流れる砂川で接しています。砂川に沿った旧海東・小川・河江、それに小野部田の四カ町村が合併し新しい小川町が誕生。今年の三月で二十周年を迎えました。小川町出身の沢田県知事さんを迎え盛大な記念式典や催し物を開いてお祝いしました。町木に木せい、町花に水仙も決まりました。香り高く清らかな町であるように……。

町の主な産業は農業で米・メロンやトマトなどの野菜、煙草に草、果樹、特に海東の生がの生産は年毎に盛んになり生産額も増加してきました。

昔、町はこの地方の物資の集散地として物資の交流が行われ、砂川には船の交通も開けていました。特に市がたつ時は近郷近在の人の集まりでにぎわったそうです。今でも三月一日の初市は植木を中心としてたくさんのお店が出てにぎやかです。

歴史的に海東は元寇の時活躍した竹崎季長ゆかりの地です。一切経の版木を作った鉄眼禪師は小野部田の生れ、豪商柏原太郎左衛門は小川の出身です。文化財は竹崎季長の絵詞、長谷寺の十一面観音像三寶寺や小川阿蘇神社の樹齢一千年以上の大楠、宮本武蔵塚等があります。古い町で伝統行事も多く阿蘇神社の獅子舞・奴道中・宋来亀 海東のご投げ祭り、棒踊り、南小川の太鼓、河江の白太鼓踊り、小野部田のおろろんべ等数えきれない程です。夏祭りの風物詩町内毎に技を競う造り物を見るのも僕達いや町民の楽しみの一つです。

昭和四十六・七七年の大水害の後、改修護岸工事が完成し、きれいな砂川になりました。山手には小川町を横断し八代市に至る九州縦貫自動車道路工事も着々と進んでいます。町民に昔から親しまれてきた観音山自然公園も整備され、新しいふるさとづくりの中心となり、緑の美しい小川町が生れつつあります。十年後二十年後いや百年後の小川町の発展を祈りながら、僕達もできるだけ努力したいと思います。